

複数の株のミニトマトを味見してもらい、味のばらつきを評価しよう

期間目安	1日	費用目安	低
研究タイプ	調査（官能評価）	対象学年	中学生（1人〜グループOK）

1. この研究のねらい

複数の株や実を、家族や友人に味見してもらい、甘さ・酸味・食感の感じ方にどれくらい差があるかを調べます。

2. 仮説を立てよう

実験・調査の前に、自分なりの予想を立てておきましょう。例えば：

- 同じ株でも実によって味の感じ方に差が出るのではないか
- 株が違うとよりはっきりとした味の差が出るのではないか

ポイント：予想が外れても問題ありません。「なぜ予想と違ったのか」を考えることが自由研究の面白いところです。

3. 準備するもの

- 味見用ミニトマト（複数株・複数個）
- 評価シート
- 爪楊枝
- 紙コップ（水ですすぐ用）

4. 手順

- サンプルにA・B・Cなどのラベルをつける（ブラインドテストにする）
- 複数人に味見してもらい、甘さ・酸味・食感を5段階で評価してもらう
- 評価結果を集計して平均点を比較する
- 実際に糖度計で測った数値があれば、感覚の評価と比べてみる

5. 記録シートの例

サンプル名	評価者	甘さ	酸味	食感	コメント

※このフォーマットを1回分として、記録のたびに行を増やしていきましょう。

6. 進めるうえでの注意点

- 味見の前に水で口をすすいでもらう
- ラベルを隠して先入観を減らす
- 評価人数は5人以上いると比較しやすい

7. まとめ方・考察のポイント

- 官能評価の結果と数値（糖度など）がどれくらい一致していたかを考察する
- 個人による感じ方の違いについてまとめる

8. レポートの構成例

- 表紙：研究テーマ、氏名、学年、日付
- 研究の目的・きっかけ：なぜこのテーマを選んだか、何を知りたいか
- 仮説：実験・調査前に立てた予想
- 準備したもの・方法：使った道具・材料、実験や調査の手順

- 5. **結果**：記録表、写真、グラフなど
- 6. **考察**：結果からわかったこと、仮説との比較、理由の推測
- 7. **まとめ・感想**：研究を通して学んだこと、次にやってみたいこと
- 8. **参考にした資料**：本やウェブサイトなど（あれば）